

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

# みやぎの

# 8月号

# 農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。  
応援します。農業普及

## NEWS LETTER No.222 2025.8

紹介内容（7/1～7/31）

### 1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 大河原農改：ブロッコリーの栽培講習会が開催されました
  - 亘理農改：県内最速！加工用ばれいしょの収穫が始まりました
  - 大河原農改：法人化に向けワークショップを開催しました
  - 大河原農改：農業法人で財務諸表の勉強会を行いました
  - 仙台農改：静岡県稲作研究会が管内法人の視察に訪れました
  - 気仙沼農改：気仙沼市認定農業者連絡会の研修会が開催されました。
  
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
  - 石巻農改：石巻地区4Hクラブ連絡協議会視察研修が開催されました
  - 登米農改：登米市認定農業者連絡協議会の総会が開催されました
  - 石巻農改：石巻4Hクラブが「青空マーケット」に参加しました
  - 気仙沼農改：令和7年度気仙沼地区農業士会総会を開催しました
  - 大河原農改：令和7年度仙南農業士会研修会が開催されました！
  - 大崎農改：大崎4Hクラブ農業技術競技で優勝 ～第69回 宮城県農業青少年技術交換大会～
  - 大崎農改：みやぎ農業未来塾を開催しました
  - 仙台農改：みやぎ農業未来塾・営農基礎講座を開催しました！
  
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
  - 美里農改：北浦梨部会がJRフルーツパーク仙台あらはまを視察
  - 大河原農改：ドローンを活用した水稻の幼穂形成期追肥作業を取材しました
  - 大崎農改：大崎農業士会第1回研修会を開催しました
  
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
  - 気仙沼農改：枝もの用クロマツの気仙沼管内現地検討会を開催しました
  - 亘理農改：JA仙台逢隈支店果樹部病害虫発生予察会が開催されました
  - 美里農改：たまねぎ直播栽培に取り組む面積が拡大しています！
  - 美里農改：北浦梨の病害虫防除研修会が開催されました
  - 仙台農改：JA新みやぎあさひなねぎ部会栽培講習会にあわせ若手生産者交流会を開催しました
  - 大河原農改：JAみやぎ仙南夏秋きゅうり部会の出荷目揃い会が行われました
  - 気仙沼農改：令和7年度南三陸ぶどう栽培摘粒技術研修会を開催しました
  - 仙台農改：シャインマスカットの摘粒講習会が開催されました
  - 登米農改：JAみやぎ登米ねぎ部会現地検討会が開催されました！

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>  
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu>

- 登 米農改：ＪＡみやぎ登米米山イチゴ部会親株管理指導会が開催されました！
- 登 米農改：ＪＡみやぎ登米りんご生産部会病害虫防除講習会を開催しました
- 亘 理農改：ＪＡ仙台いちご部会出荷反省会が開催されました
- 大 崎農改：令和７年度加美郡りんご協議会現地検討会
- 栗 原農改：枝もの用クロマツの広域現地検討会が開催されました
- 大河原農改：丸森町ぶどう栽培講習会が開催されました
- 石 巻農改：河北せり振興協議会第７回通常総会が開催されました
- 登 米農改：ＪＡみやぎ登米りんご生産部会現地検討会が開催されました
- 仙 台農改：ＪＡ新みやぎあさひなねぎ部会現地検討会にあわせ若手生産者情報交換会を開催しました

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 登 米農改：小麦「夏黄金」ほ場見学会が開催されました
- 大河原農改：ササニシキ復活プロジェクトの講習会が開催されました
- 登 米農改：良質米生産を目指し、各地区で水稻現地検討会が開催されました
- 石 巻農改：稲作部会現地検討会を開催しました
- 登 米農改：猛暑の中、大豆難防除雑草対策実証ほ見学会が開催されました
- 気仙沼農改：酒米「葦の華」の稲作指導巡回を行いました
- 石 巻農改：石巻地域肉用牛共進会が開催されました！
- 大河原農改：令和７年産仙南水稻栽培塾を開催しました
- 大河原農改：第２７回仙南地域和牛共進会が開催されました

⑥ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

- 亘 理農改：なとり・ぐるっと親子講座 夏野菜もぎとり体験が開催されました

## 2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

- 仙 台農改：ＪＡ新みやぎ「みどり認定」交付式

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

#### ○ブロッコリーの栽培講習会が開催されました 令和7年7月3日 大河原農業改良普及センター



仙南地域におけるブロッコリーは、県内一の産地（栽培面積：28ha）であり、夏まき秋冬穫りの作型が主体となっています。

今年度の作付に向け、6月以降、JAみやぎ仙南の各地区（川崎、丸森、蔵王）において栽培講習会が開催されました。普及センターは講師として出席し、育苗管理における高温対策、近年問題となっている黒すす病の発生生態や農薬の使用方法について重点的に説明を行いました。7月中旬以降、順次、播種が行われる予定となっています。

特に黒すす病については、農業・園芸総合研究所と連携した現地調査を通じて、効率的な防除方法の検討を行うこととしています。

普及センターでは、今後も仙南地域のブロッコリーの生産拡大に取り組んでいきます。

#### ○県内最速！加工用ばれいしょの収穫が始まりました 令和7年7月11日 巨理農業改良普及センター



令和7年7月7日、岩沼市の有限会社やさい工房八巻が加工用ばれいしょの収穫を始めました。

この加工用ばれいしょは、3月23日と24日に植え付けられたもので、定期的な防除などの管理作業が徹底されて順調に生育し、県内で最も早い収穫を迎えることができました。



加工用ばれいしょに取り組み4年目になる同法人は、大型機械を使った収穫作業をスムーズにこなし、収穫されたばれいしょが次々にコンテナに積み込まれていました。

この後、このばれいしょは宇都宮にある菓子メーカーの工場に輸送された後、お馴染みのスナック菓子の原料に供される予定です。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、地域の加工用ばれいしょの生産と振興を支援していきます。

#### ○法人化に向けワークショップを開催しました 令和7年7月14日 大河原農業改良普及センター





村田町沼田地区では、農地整備事業を契機として担い手が集落の農地を集積し、安定した営農を行うことができるよう、昨年度より普及センター職員を講師とした法人化勉強会を開催しています。

6月19日には、ワークショップを開催し「沼田地区の20年後のカタチ」をテーマに話し合いを行いました。

2つのチームに分かれ、ベテランから若手までのさまざまな年代の農業者が、それぞれの思いをふせん紙に書いて発表し、意見交換を行いました。

「赤ん坊が大人になって農業をやりたいと思うような地区にしたい」「有名ホテルの朝食で出されるようなブランド米を作りたい」といった、前向きな意見が活発に交わされ、ときおり拍手が沸き起こるなど、にぎやかな雰囲気の中で話し合いが行われました。

最後に、沼田地区の目指す未来図が発表され、今後はその実現に向けて一步一步進めていくことを共有しました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携して沼田地区の地域営農体制の検討を支援していきます。

### ○農業法人で財務諸表の勉強会を行いました

令和7年7月14日

大河原農業改良普及センター



令和3年10月に設立された川崎町の農事組合法人ふるせきファームは、水稻、そば、露地野菜を中心とした経営を行っています。第4期の決算を終え、法人より「決算書の見方を理解し、法人の経営状況を把握したい。」と要望が出されたため、財務諸表勉強会を令和7年6月30日に開催しました。

法人理事6名が出席し、普及センター職員が講師となり、決算書を読む目的やポイント、財務諸表の仕組みについて説明しました。その後、法人の経営成績がどのように変化しているかを実際の決算書を比べながら解説しました。

決算書の数値から法人が着実にステップアップしていることが何われ、理事から「決算書の読み方について理解ができた。これまで疑問に思っていたところが分かって良かった。」といった感想が出されました。

普及センターでは、今後も経営発展を目指す法人を支援してまいります。

### ○静岡県稲作研究会が管内法人の視察に訪れました

令和7年7月15日

仙台農業改良普及センター



令和7年7月8日(火)に、静岡県稲作研究会の会員19名が、管内の農業法人である(農)仙台イーストカントリーと(農)井土生産組合の視察に訪れました。

静岡県稲作研究会は、昭和52年に静岡県内の大規模水稲農家を中心に発足した歴史を持ち、現在の会員は48名、賛助会員は31団体、会員全体の水田作付面積は約2,300ha(静岡県内水田作付延べ面積の約12%)に上ります。

静岡県は、南海トラフ地震の発生が懸念される地域であり、研究会員が耕作する水田の一部も沿岸地域に位置しています。このため、今回の視察では、東日本大震災直後の状況や、復興を通じて経験した地震への備え、経営再建への歩みなどを中心に視察を行いました。

会員の皆様からは、震災後の農地はどうなったのか、機械類の導入はどうしたのか、災害に備えて何を準備すべきか、など多くの質問があり、活発な意見交換がされました。

今後も地域間での交流が行われ、災害への備えや、経営の発展に寄与することを期待します。

### ○気仙沼市認定農業者連絡会の研修会が開催されました

令和7年7月23日

気仙沼農業改良普及センター



令和7年7月4日、気仙沼市「はまなす海洋館」において、気仙沼市認定農業者連絡会の研修会が開催され、来賓を含め29人が参加しました。

今回は「みどりの食料システム戦略推進の取組」をテーマに、みどりの食料システム戦略の概要やみどり認定、みえるらべる、J-クレジットといった関連制度、管内の取組事例について普及センターから説明しました。

また、研修会後には連絡会の通常総会、懇親会が開催され、地域農業の振興に向け、活発に情報交換がなされていました。

普及センターでは、認定農業者の経営改善とみどり戦略の推進に向け、引き続き支援を行ってまいります。

## ②新たな担い手の確保・育成

### ○石巻地区4Hクラブ連絡協議会視察研修が開催されました

令和7年7月1日

石巻農業改良普及センター



石巻市と東松島市の青年農業者で構成する石巻地区4Hクラブ連絡協議会の視察研修が、6月24日～25日に開催されました。

今回の研修では、福島県会津若松市河東町地区で「食肉用馬」を飼育している「株式会社社会津畜産」の「河東牧場」を見学しました。

会津畜産では、会津地域の河東地区と喜多方地区の2か所に直営牧場を所有しており、常時250～300頭の馬を飼育しています。自社牧場で肥育後、加工、販売までを一貫して行っています。

クラブ員は、畜舎の中で実際に馬を見学し、佐藤代表取締役から、肥育牛から肥育馬へ経営転換し、自らの創意工夫により、おいしい馬肉となる馬を育てる

技術を確立させ、販売までの一貫した会社経営を行っているとの話を伺い、感嘆の声を上げていました。自分たちの地域とは異なる農業経営があることを実感でき、有意義な視察研修となりました。

### ○登米市認定農業者連絡協議会の総会が開催されました

令和7年7月4日

登米農業改良普及センター



令和7年6月27日に登米市認定農業者連絡協議会主催で令和7年度通常総会が迫公民館にて開催され、協議会員17名が参加しました。

開会の挨拶として協議会の高橋会長から、また、熊谷市長、中澤市議会議長、J Aみやぎ登米石川組合長から来賓祝辞がありました。

総会では、令和6年度事業報告・収支決算、令和7年度事業計画案・収支予算案が承認されました。

総会終了後の研修会で、普及センターから「農作業の安全及び熱中症対策」と家族以外の従業員を雇用する場合の「雇用主の義務」について説明しました。

県では、今後も認定農業者の活動を支援しつつ、農作業事故防止のPRを継続していきます。

### ○石巻4Hクラブが「青空マーケット」に参加しました

令和7年7月25日

石巻農業改良普及センター





令和7年7月20日に、石巻南浜津波復興祈念公園で、地域住民の交流・賑わいの創出を目的とするとともに、東日本大震災の記憶を風化させないための活動の一環として「青空マーケット」が開催され、石巻地区4Hクラブ連絡協議会が参加しました。

「青空マーケット」には、地元飲食店や事業者の出店のほか、フリーマーケットによる地域住民の参加があり、クラブ員自ら生産した「朝採りとうもろこし」をはじめとする野菜を販売して、参加者との交流を深めながら、「農村青年の活動」の紹介を行いました。

参加された皆様のご厚意により、準備した「朝採りとうもろこし」、「きゅうり」、「なす」、「アスパラガス」を全て売り切ることができました。

来場された方からは、「今朝採ったとうもろこしが生産者から直接買えてうれしい」、「開催チラシを見ていて楽しみにしていた」といったうれしい声が多く聞かれました。

クラブ員らも、初めて参加したイベントでの野菜販売と他の参加者との交流に成し遂げた感のある様子でした。

当普及センターでは、4Hクラブ活動を通じた若手農業者の取組を、引き続き支援していきます。

## ○令和7年度気仙沼地区農業士会総会を開催しました

令和7年7月25日

気仙沼農業改良普及センター



令和7年6月27日、気仙沼市本吉町内で、気仙沼地区農業士会の令和7年度総会が、会員5名が出席して開催されました。様々な分野で農業を営む会員が参加し、議事開始前から、それぞれの営農部門を超えて情報交換が行われていました。

山内寿行会長のあいさつ、気仙沼農業改良普及センター所長の祝辞の後、議事が進められました。議案は全て承認され、今年度も地域農業の振興及び若い担い手の育成に向けて活動していくことを確認しました。

普及センターからは、今年度本県にて開催予定の

令和7年度東北・北海道地域農業士研究会宮城県大会や、今年6月から義務化された熱中症対策についての情報周知を行いました。

普及センターでは、引き続き地区農業士会の活動を支援していきます。

## ○令和7年度仙南農業士会研修会が開催されました！

令和7年7月28日

大河原農業改良普及センター



宮城県では、栽培技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々に指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターとの連携のもと、次代の農業を担う若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。

大河原農業改良普及センター管内の農業士で構成する仙南農業士会では、7月17日に研修会及び総会を開催しました。

研修会は役員会で要望が出された「農業現場における人材育成」をテーマに、ラシック合同会社の代表社員、中山聖子氏より、Z世代の若手農業者には伴走型の育成方法が必要であることや、組織内の協働的コミュニケーションの重要性等について説明いただきました。

参加した会員同士で意見交換を行う時間も設けられ、「若手人材が離職するポイントと原因」について活発に意見を出し合っていました。会員からは、組織内でのPDCAサイクルの回し方や、従業員への責任感の持たせ方等について積極的な質問があり、充実した研修会となりました。

研修会後に行われた令和7年度総会では、退任農業士・新任農業士が紹介され、新たに任命された農業士から挨拶をいただきました。

普及センターでは、今後も農業士の栽培技術や経営管理の向上に向けた活動に対する支援を行います。

○大崎4Hクラブ農業技術競技で優勝 ～第69回  
宮城県農業青少年技術交換大会～  
令和7年7月28日  
大崎農業改良普及センター



令和7年7月12日から13日の2日間にわたり、石巻市河南旭山農業体験実習館を会場に、「宮城県農村青年のつどい・スポーツ交流会」が開催されました。県内の4Hクラブ員が集まり、大崎4Hクラブからは4名が参加しました。

1日目は、第69回宮城県農業青少年技術交換大会（農業技術競技）とスポーツ交流が行われました。農業技術競技は2人1チームとなり、農業に関する問題を解くもので、会場内各所に設置された問題を探しながら、正答率とゴールまでの到達時間により順位を競いました。植物生理学の分野や食料自給率、米価高騰などの最近の農業情勢まで幅広い問題に対し、どのチームも協力し合いながら解き進めていました。

表彰式では、チームの部、地区総合の部で順位が付けられ、大崎4Hクラブは地区総合優勝を飾りました。

普及センターでは、引き続き次世代を担う若手農業者の取組を支援していきます。

○みやぎ農業未来塾を開催しました  
令和7年7月28日  
大崎農業改良普及センター



令和7年6月25日、宮城県農業・園芸総合研究所を会場に、令和7年度みやぎ農業未来塾「スマート農業研修」を開催し、大崎普及センター管内の若手生産者及び新規就農希望者が参加しました。

研修は、宮城県が推進しているアグリテック事業の説明とICT技術を活用した農業機械の実演・操作体験とし、宮城県RTKシステムを利用した自動操舵により走行するトラクターへ乗車したほか、ラジコン除草機の操作実習、そして農業散布用ドローンの動作実演を行いました。

ハンドルを握ることなく直進や旋回を行うトラクターに乗車した参加者は、普段実際に操作する感覚と異なることに驚きを感じつつも、自動操舵のメリットや他の農業機械への転用ができるかなどの質問を行うなど、高い関心を示していました。

普及センターでは、今後も宮城県RTKシステムを活用した農業機械自動操舵システムやドローンの導入のほか、栽培支援システムの導入など、農作業の効率化・省力化に寄与するアグリテック活用を推進するため、様々な支援を行っていきます。

○みやぎ農業未来塾・営農基礎講座を開催しました！

令和7年7月23日  
仙台農業改良普及センター



7月23日(水)に、農業・園芸総合研究所で「みやぎ農業未来塾 営農基礎講座」を仙台農業士会と共催で開催し、総勢19名の農業者・就農希望者等が参加しました。

今回は「気候変動に適応した病虫害防除」をテーマに、近年増えてきている病虫害やその防除方法等について学ぶため、場内試験ほ場の視察と、試験場職員2名から講義いただきました。

視察では、気候変動適応技術の試験を行っているほ場等を視察し、特にブロッコリーの育苗技術に関する説明では、生産者の皆さんも熱心にメモをとり、質問をする様子が見られました。

講義では、病虫害が発生する条件や、薬剤のローテーションといった基礎的な知識だけでなく、県内で増えてきている病虫害など、最新の情報も交えて説明いただきました。

また、営農・就農準備の中で抱えている不安や課題の共有、日頃実践している病虫害防除の方法等について相互に学ぶため、仙台農業士会の会員の皆様にもご協力いただき、意見交換を行い、農業者間の交流を図りました。

参加した農業者からは「普段接することのない他地域の農業者の話を聞いて良かった」、「気温が高くなってきたことへのアプローチや、考え方を変えなければいけないことの参考となった」といった感想が聞かれました。

普及センターでは、今後も積極的に農業者同士の交流を進め、新規就農者の経営の安定化に向けて支援していきます。

### ③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

#### ○北浦梨部会が JR フルーツパーク仙台あらはまを視察 令和7年7月8日 美里農業改良普及センター



「北浦梨」は、美里町北浦地区で大正時代から栽培される特産品で、現在はJ A新みやぎ北浦梨部会(35人)により、約10haで栽培されています。

今回、部会員の栽培技術向上に向けて、7月2日にJRフルーツパーク仙台あらはまでの視察研修を開催し、部会員9人が参加しました。

はじめに、仙台ターミナルビル株式会社 専門監柴田様よりご講義いただき、早期成園化と省力化を実現する技術であるジョイント栽培について学びました。

その後、施設内の園地にて、V字型に仕立てられたジョイント栽培の様子を見学しました。研修に参加した部会員からは、枝の管理方法や必要な設備などについて積極的に質問が挙がり、ジョイント栽培への理解を深めました。また、近年の高温により日本なしの生育への影響が心配される中、注目される品種についての紹介もあり、参加者からは今後の栽培の参考になりたいとの声も聞かれるなど、大変有意義な視察研修となりました。

#### ○ドローンを活用した水稻の幼穂形成期追肥作業 を取材しました 令和7年7月15日 大河原農業改良普及センター



宮城県で令和3年3月に策定した「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」で掲げているアグリテック(※)による労働生産性の高い農業経営の展開のため、普及センターでは、プロジェクト課題や重点活動等の取組を行い、管内における先端技術の推進や展開を支援しています。

※農業に、スマート農業技術を含むICT(情報通信技術)等の先進技術を導入することで、省力・軽労化を図るなどの課題を解決すること。

管内における先端技術の更なる展開のため、農業用ドローンや栽培支援システムを活用している角田市の水稲生産組織のほ場において、ドローンを活用した幼穂形成期追肥作業の取材を行いました。

ドローンの操作は県のRTKシステムを利用した自動操舵により行われ、約1.5haのほ場において、準備時間も含めて30分程度で追肥作業が終了し、非常に効率の良い作業となりました。生産組織からは「夏場の暑い時期でもドローンを活用すれば体への負担を最小限にしながら、効率的に追肥作業が可能となった」等の感想がありました。

今後も継続的に先進的な取組について情報発信を行い、関係機関と共に支援を続けてまいります。

○大崎農業士会第1回研修会を開催しました  
令和7年7月24日  
大崎農業改良普及センター



宮城県では、技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々を指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターとの連携のもと、次代の農業を担う若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。

令和7年7月17日に管内の農業士で組織する大崎農業士会が、今年度1回目の研修会を開催しました。今回は株式会社舞台ファームが2021年に美里町に設立した美里グリーンベースを視察しました。

美里グリーンベースは天候に左右されず、露地栽培の80倍の生産効率があるハイブリッド土耕栽培でレタスを生産している大規模次世代型植物工場です。

今回の研修会には野菜栽培を行っている農業士等6名が参加しましたが、作物の生理に合わせた温度や湿度、養液のpH管理などの説明をいただき、今後栽培管理を行う上で大変参考となる研修会となりました。

普及センターでは、今後も先端技術農業士活動に対する支援を行っていきます。

④園芸産地の育成・強化支援

○枝もの用クロマツの気仙沼管内現地検討会を開催しました  
令和7年7月1日  
気仙沼農業改良普及センター



令和7年6月20日、気仙沼農業改良普及センター主催で気仙沼・南三陸地域枝もの用クロマツ現地検討会を開催しました。

気仙沼市西中才のクロマツほ場を会場に、気仙沼管内クロマツ生産者や関係機関が集まりました。

西中才のクロマツは、揃いが良くきれいに整ったクロマツで、これまでのこまめな管理が伺えます。播種から3年目を迎え、12月に側枝（小松）の出荷が期待されますが、やや葉が少ないことから、出荷についてお盆明けに再度検討することとなりました。

南三陸町で枝もの用クロマツの生産に取り組んでいる株式会社南三陸PineProの後藤社長より、葉を多くするには秋に施肥すると良いとのアドバイスがありました。

県では、枝もの用クロマツ生産を拡大するため、各種の研修会等を企画していますので、興味のある方は参加してみませんか。

○JA仙台逢隈支店果樹部病害虫発生予察会が開催されました  
令和7年7月2日  
亘理農業改良普及センター



亘理町のJA仙台逢隈支店果樹部は、りんごを中心に果樹栽培を行っており、樹上で完熟させるりんごとして人気があります。

令和7年6月23日に、病害虫発生予察会が開催され、共同防除担当者7人が6か所のりんご園をまわって、病害虫の発生や生育状況の確認を行いました。

6月から8月にかけて病害虫が発生しやすいため、早期発見と的確な防除が大切です。また、病害虫の発生状況に応じた防除を行うことで、薬剤の使用量を減らすことができ、環境にやさしい果樹栽培にもつながります。

今回の調査では、ハダニ類やその他病害虫の発生は見つからず、りんごの生育も順調でした。秋にはおいしいりんごがたくさん収穫できそうです。

普及センターでは、気象や開花状況、果実の肥大、農薬危害防止について情報提供を行いました。今後も果樹部の活動の支援を行っていきます。

### ○たまねぎ直播栽培に取り組む面積が拡大しています！

令和7年7月3日

美里農業改良普及センター



美里普及センター管内（美里町、涌谷町等）では、たまねぎの需要拡大を受け、作付面積が、令和4年産の約4haから、令和7年産は約8.6haに増加しています。また、面積拡大に伴い、省力化が可能な「直播栽培」の取組も広がっています。

たまねぎの直播栽培は、育苗・移植にかかる労力やコストを削減できることから、普及センターでは、苗立ちの安定を目指し、品種の選定や播種時期について、生産者やJA関係者とともに検討を重ねてきました。

その結果、管内のたまねぎ生産面積に占める直播栽培の割合は約半分にまで拡大し、移植栽培と同程度の収量が得られるようになりました。

たまねぎ直播栽培は移植栽培よりも難しいとされますが、より省力的で生産性の高いたまねぎ生産に向けて、今後も生産者や関係者と連携し、直播栽培に取り組んでいきます。

### ○北浦梨の病害虫防除研修会が開催されました

令和7年7月8日

美里農業改良普及センター



美里町の「北浦梨」は大正時代から続く特産品で、県内有数の日本なし産地となっています。

JA新みやぎ北浦梨部会（部会員35人）は、令和7年産の高品質な果実生産に向けて、5月15日に病害虫防除研修会を開催し、部会員等8人が参加しました。

はじめに、普及センターから予備摘果の実施時期や残す果実の基準等の基本事項について説明し、果実の品質向上や安定した生産量の確保のため、改めて摘果作業の重要性を確認しました。

その後、注意すべき病害虫として、果実に吸汁害をもたらすカメムシ類について解説しました。近年の高温で発生回数が増えているため、防除暦に採用されている薬剤を散布し、産地での一斉同時防除が重要であることを説明しました。また、暑さで発生が助長されるハダニ類やニセナシサビダニに対しても注意を呼び掛けました。

こうした、病害虫や摘果などの研修を通じて、今シーズンも安定した「北浦梨」の収穫生産が期待されます。

### ○JA新みやぎあさひなねぎ部会栽培講習会にあわせ若手生産者交流会を開催しました

令和7年7月8日

仙台農業改良普及センター



令和7年6月19日にJA新みやぎあさひな統括営農センター主催のねぎの栽培講習会が開催され、ねぎ部会員23名が参加しました。

講師に、(株)渡辺採種場 瀬峰研究農場の研究員を迎え、「梅雨から夏にかけての栽培管理のポイント」をテーマに、病虫害防除や排水対策、高温期の管理の注意点などについて学びました。普及センターから、農薬危害防止と農作業中の熱中症予防について説明しました。

また、栽培講習会終了後に、普及センター主催で若手生産者の交流会を開催し、5名の生産者が参加して、自身の生産状況や課題等を発表し、活発に情報交換が行われました。

普及センターでは、引き続き、若手生産者の栽培技術の向上とネットワークづくりを重点的に支援し、農業の担い手育成と産地の活性化に取り組んでいきます。

**○JAみやぎ仙南夏秋きゅうり部会の出荷目揃い会が行われました**  
 令和7年7月10日  
 大河原農業改良普及センター



7月7日、蔵王町でJAみやぎ仙南夏秋きゅうり部会の出荷目揃い会が開催され、これから本格的な出荷を迎える夏秋きゅうりの出荷規格の確認を行いました。主な出荷先である京浜市場の担当者からは、猛暑の影響で、関東以西の産地の出荷が減少し、相場は高めで推移していることから、今後東北の産地におおいに期待しているとの説明がありました。

目揃い会終了後、普及センターから、高温対策を中心に肥培管理や病虫害防除等、これからの管理について説明を行いました。

今後も、普及センターでは夏秋きゅうりの栽培支援に取り組んでまいります。

**○令和7年度南三陸ぶどう栽培摘粒技術研修会を開催しました**  
 令和7年7月11日  
 気仙沼農業改良普及センター



令和7年7月1日に、管内の大粒ぶどう生産者を対象にした栽培技術研修会を南三陸町で開催しました。

普及指導員が講師となり、シャインマスカット等の大粒種のぶどうで高品質な果房を作るために重要な摘房・摘粒や副梢管理等の作業について、実演を交えて説明を行いました。特に、摘粒はぶどう栽培の中でも最終的な房の形や重さが決まる重要な作業であることから、摘粒のポイントについて説明した後、参加者もその場で実践し、理解を深めました。参加者からは、「どの房、どの粒を優先して残せばよいか」「実践したことでどのような形にすれば良いかイメージが出来た」など、多くの質問や意見が寄せられたほか、参加者同士で活発な意見交換を行っている様子も見られ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、高品質・安定生産に向けた現地での栽培研修会のほか、南三陸さんさん商店街での販売会の開催などPR活動についても、引き続き支援を行ってまいります。

**○シャインマスカットの摘粒講習会が開催されました**  
 令和7年7月11日  
 仙台農業改良普及センター



令和7年7月7日に、大和町のぶどう「シャインマスカット」栽培ハウスを会場に、JA新みやぎあさひなぶどう部会の講習会が開催され、部会員12名が参加しました。当普及センター職員が講師となり、仕上げ摘粒方法や今後の作業等について説明を行いました。

ぶどうハウス内で、実際に参加者とともに、最終着房数やジベレリン処理後の果実の生長状況等を確認しながら、目標房重に応じた着果数、今後の暑さ対策等について説明しました。また、地域を代表する生産者からは水やりのコツや暑さ対策で使っている扇風機の使い方について、話題提供もしていただきました。

普及センターでは、今後も、高品質なぶどうの生産や産地PRに向けて、同部会を支援していきます。

### ○JAみやぎ登米ねぎ部会現地検討会が開催されました！

令和7年7月15日  
登米農業改良普及センター



令和7年6月24日に登米市中田町で、JAみやぎ登米ねぎ部会現地検討会が開催され、部会員等33名が参加しました。

初めに現地ほ場の生産者から生育の状況と管理のポイントについて説明があり、順調な生育の状況を確認しました。普及センターからは梅雨時期の排水対策や病害虫防除、土壌分析の活用について説明を行いました。新規栽培者を中心に質問が出され、ベテラン農家や種苗メーカー（(有)兵藤種苗）が助言するなど活発な情報交換が行われました。JAみやぎ登米ねぎ部会は法人の参入や機械体系の導入、加工業務需要などにより、部会員および作付面積が増えています。普及センターでは、今後も安定生産に向けた取り組みを支援してまいります。

### ○JAみやぎ登米米山イチゴ部会親株管理指導会が開催されました！

令和7年7月15日  
登米農業改良普及センター



令和7年6月27日に、いちご親株管理指導会が開催され、4経営体13人が参加しました。

宮城県農業・園芸総合研究所の職員及びJAみやぎ登米の担当者とともに、米山イチゴ部会の生産者4経営体の親株増殖ほ場全てを巡回し、生育状況の確認及び今後の管理について指導を行いました。

これまでの生育は順調で、苗数も昨年の同時期より多くなっています。害虫の発生が若干確認されたものの、適期防除により病害虫の被害はごくわずかにとどまっています。

今後も、ほ場の巡回指導を通して適切な栽培管理支援を行い、より健全な苗の生産を目指します。

### ○JAみやぎ登米りんご生産部会病害虫防除講習会を開催しました

令和7年7月15日  
登米農業改良普及センター



令和7年6月19日に、JAみやぎ登米りんご生産部会病害虫防除講習会が開催されました。部会員8人、関係機関職員3人が参加しました。

講習会では、普及センターから登米管内の気象や生育状況を踏まえ、現在発生している病害虫や注意が必要なものについて説明を行い、今後の防除対策についても説明しました。講習会終了後の質疑応答では、農薬の使用方法や害虫対策に関する活発な議論が交わされ、大変有意義な時間となりました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携しながらりんご生産の支援を行ってまいります。

## ○JA仙台いちご部会出荷反省会が開催されました

令和7年7月16日

巨理農業改良普及センター



J A 仙台いちご部会の令和7年産出荷が6月20日に終了したことから、7月8日に仙台市秋保において、部会生産者と出荷先8市場等の関係者が一堂に会した出荷反省会が開催されました。J A 仙台になり、初の出荷反省会となることから生産者、出荷先の市場関係者も参集し、全体で70人を超える会となりました。

令和7年産の育苗期は、梅雨明けが遅く、日照不足が続いたことから、根張りが弱く軟弱徒長の生育となりました。また、定植期の9月上旬は暑いながらも曇雨天が続いたことから、定植後の活着が遅れ、その影響で1週間から10日遅れての出荷開始となりました。年内クリスマス出荷は順調でしたが、その後の寒波の影響で、1～2月は低調な出荷が続きました。3月に入ると一気に気温が高く推移したため、1日で最高4,000梱包を超える日が数日続きました。業務向け出荷量が増えたことや、各市場の宣伝・販売協力により、最終の出荷量は2,177t、震災前を超える過去最高の34.5億円の販売金額となりました。

令和7年産の反省点を踏まえ、令和8年産に向け、J A 及び普及センターから、高温対策、病虫害防除に関する管理や、新たな取組を提案し、「もういっこ」、「にこにこベリー」、「とちおとめ」の更なる安定生産に向け決意を新たにしました。

普及センターは今後も安定生産に向けて支援をしていきます。

## ○令和7年度加美郡りんご協議会現地検討会

令和7年7月18日

大崎農業改良普及センター



加美郡内のりんご生産者14名で組織する加美郡りんご協議会は、毎年研修会や先進地視察などの調査・研究活動を精力的に行っています。令和7年7月15日には、これら活動の一環として、参加者の園地を巡

回し着果状況や病虫害発生状況などの確認を行う現地検討会を開催しました。当日は台風5号の影響もあり、あいにくの雨模様となりましたが、夫婦での参加もあり15名の参加がありました。

今年の発芽期以降の生育は平年よりも3日早く、果実肥大も平年よりやや進んでいる状況となっており、褐斑病の発生が散見されたほかはハダニなどの発生も見られず、ここまで順調な生育となっています。普及センターからは、今後発生が予想される病虫害防除や新梢の管理、暑熱対策等について情報提供を行いました。

また、宮城県では、毎年農薬の使用機会が多くなる6月から8月までの3か月間を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の適正使用についての呼びかけを行っているため、農薬の安全使用についての確認も行いました。

当センターでは、今後も会員の技術向上のため、協議会活動の支援を行っていきます。

## ○枝もの用クロマツの広域現地検討会が開催されました

令和7年7月23日

栗原農業改良普及センター



令和7年7月8日（火）、枝もの用クロマツの広域現地検討会が開催され、クロマツ生産者7名のほか関係機関が参加しました。会場の栗原地域は、令和4年にクロマツの栽培が始まり、今秋や来年に初出荷が予定されています。

検討会では参加者全員で各ほ場を回り、生長したクロマツの様子を確認しました。同じ生産者が同じ年に播種したクロマツでも、ほ場ごとの日当たりや土壌水分量等環境面の違いにより生育に差がみられました。生産者は、クロマツのどの枝が良品か、そうでないかを見極めを確認し、また、互いの栽培状況について情報交換しました。

ほ場確認の後はクロマツ栽培や出荷の疑問等について活発に意見交換したほか、今季の出荷に向けたスケジュールを確認しました。

普及センターでは、今後も枝もの用クロマツの安定生産に向けた支援を行います。

## ○丸森町ぶどう栽培講習会が開催されました

令和7年7月23日

大河原農業改良普及センター



令和7年6月25日に丸森町ぶどう共同ハウスを会場に丸森町農業創造センター主催のぶどう講習会が開催され、管内の生産者16人が参加しました。

普及センターは講師として、摘粒の時期及び方法、副梢の管理やかん水等の今後の管理について資料を用いて説明し、摘粒の実演も行いました。また、当日はベテラン生産者が栽培経験の浅い生産者に摘粒のコツを教える姿も見られ、生産者同士の交流もはかられた講習会となりました。

普及センターは今後もぶどう栽培技術の向上と定着に向け支援を続けてまいります。

### ○河北せり振興協議会第7回通常総会が開催されました

令和7年7月28日

石巻農業改良普及センター



7月7日に河北せり振興協議会の第7回通常総会及びせり栽培講習会が開催され、関係機関として普及センターも参加しました。河北せり振興協議会会員のほか、JAいしのみき営農部担当者や市、県関係者など20名が出席しました。

総会では、今年度の取り組みとして、講習会や圃場巡回により生産、供給体制の強化を図るほか、引き続きメディア取材やイベントへの参加を行い、さらなる需要拡大を目指すことが決まりました。

その後に行われたせり栽培講習会では、農業・園芸総合研究所野菜部及び園芸環境部から、気候変動に対応した栽培方法やウイルス病防除についての説明がありました。会員からの質疑応答も行われ、せり栽培への理解がより深まりました。

普及センターでは今後も協議会の活動と河北せりの生産支援を行います。

### ○JAみやぎ登米りんご生産部会現地検討会が開催されました

令和7年7月29日

登米農業改良普及センター



令和7年7月23日、登米市中田町においてJAみやぎ登米りんご生産部会現地検討会が開催され、部会員など9名が参加しました。

はじめに、現地ほ場の生産者より、生育状況や管理のポイントについて説明があり、参加者全員で順調な生育を確認しました。検討会では、若手生産者がベテラン生産者に積極的に質問する場面も多く見られ、活発な意見交換が行われました。

登米地域では、省力化を図るための樹形「ジョイントV字栽培」を若手生産者が積極的に導入しており、その導入面積は年々拡大しています。

普及センターでは、今後もりんごの安定生産に向けた取り組みを継続して支援してまいります。

### ○JA新みやぎあさひなねぎ部会現地検討会にあわせ若手生産者情報交換会を開催しました

令和7年7月31日

仙台農業改良普及センター



令和7年7月15日にJA新みやぎあさひなねぎ部会で現地検討会が開催され、部会員18名が参加しました。

検討会は、大和町の部会員2人のほ場を巡回し、ねぎの生育や病害虫の発生の状況を確認しました。普及センターから今年度実施した殺虫剤の農薬展示試験の内容について説明しました。

現地検討会終了後に、普及センター主催で第2回若手生産者情報交換会を開催し、前回以降の肥培管理や病害虫防除の状況など情報交換をしました。また今後計画している先進地視察の開催時期などを協議しました。

普及センターでは、引き続き、若手生産者の栽培技術の向上とネットワークづくりを重点的に支援し、地域農業の担い手育成と産地の活性化に取り組んでまいります。



### ⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

#### ○小麦「夏黄金」ほ場見学会が開催されました

令和7年7月3日

登米農業改良普及センター



令和7年6月23日に山形県の製粉会社主催((株)小川製粉)で、登米地域で生産されている小麦「夏黄金」のほ場見学会が開催され、約50名が参加しました。参加者の多くは宮城県産夏黄金が原料の小麦粉を使用したパンやピザなどを提供される飲食店の方々と、流通業者やJA全農等の担当者も参加しました。

情報交換の場では、飲食店の方の国産や地元の食材を使用していきたいという気持ちや、生産者のより良いものを届けたいという想い、また普及センターからは生産者が栽培で苦労しているポイントや生育状況等を共有し、充実した時間となりました。飲食店の方々からは現地で初めて小麦の穂を見たという話が多く聞かれ、生産現場と実需者が交流できる貴重な機会となりました。

普及センターでは、今後も登米管内の麦類の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

#### ○ササニシキ復活プロジェクトの講習会が開催されました

令和7年7月8日

大河原農業改良普及センター



令和7年6月27日に宮城白石産ササニシキ復活プロジェクト(以下、「ササプロ」とする。)の講習会が開催されました。午前にはササプロの栽培者8人の各ほ場を巡回して水稻の生育及び管理状況等を確認し、午後は良質米生産に向けた講習が行われました。

現地巡回では、各ほ場の生育状況や病虫害等の状況把握を行い、各ほ場の生育状況に合わせた今後の管理について説明しました。目立った病虫害や雑草は確認できませんでしたが、田植え時期の早晚が影響し、各ほ場の生育ステージ差が大きかったので、生育に合わせて中干し時期などを決めていく必要があります。

午後には、大河原農業改良普及センターから稲作情報(大河原普及センター発行)による水稻生育状況と中干し、斑点米カメムシ防除等の管理について説明し、併せて、たい肥の活用に関する情報提供を行いました。参加者からは、カメムシ防除時期についての質問があり、適期の確認を行いました。

今年も実り多い秋を迎えられるよう、生育状況を把握しながら情報提供を行い、栽培技術のサポートを行ってまいります。

#### ○良質米生産を目指し、各地区で水稻現地検討会が開催されました

令和7年7月10日

登米農業改良普及センター



6月上旬から下旬にかけ、市内4地区で水稻の現地検討会が開催され、このうち、6月25日開催の石越地区の検討会では生産者が9名参加しました。

普及センターからは、稲の生育と今後の管理について説明し、その後、除草剤試験を実施しているほ場8カ所を巡回しました。ほとんどのほ場で残草は見られず、除草剤の効果を生産者と確認することができました。また、茎数や葉色の状況から概ね生育は順調に進んでいることを確認し、中干し実施タイミングや病害虫の発生状況などの情報交換が行われました。

普及センターでは、今後も水稻の収量・品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

### ○稲作部会現地検討会を開催しました 令和7年7月11日 石巻農業改良普及センター



令和7年7月4日（金）に、いしのまき農協稲作部会主催の現地検討会が開催されました。

管内の環境保全米のほ場3カ所を巡回し、水稻の草丈や茎数、葉色などから生育状況を確認し、追肥等、今後の管理について検討しました。今年は草丈が長く、茎数が少なく、葉色が薄い傾向となっています。気温が高く、7月末となる出穂期を見据えて、今後も適切な管理に努めるよう呼びかけました。

当普及センターでは、地域一丸となった稲作の安定した収量・品質の確保に向け、引き続き支援していきます。

### ○猛暑の中、大豆難防除雑草対策実証ほ見学会 が開催されました 令和7年7月14日 登米農業改良普及センター



近年、大豆栽培においても除草剤が効きにくい雑草が発生し、県内各地で問題となっています。

30℃を大きく超える気温の中、7月7日に全農みやぎ主催の大豆難防除雑草対策実証ほ場見学会が登米市豊里地区で開催され、栽培者及び関係機関から約50名が出席しました。

実証ほは、耕起前と播種前に除草剤を散布し、2回目の散布直後に耕起して播種するという体系で、アサガオを対象としています。生産者からは「春の低温でアサガオの発生が遅く、一回目の除草剤散布の判断が難しかった。」という説明がありました。

ほ場の見学では、実証ほは他のほ場より明らかにアサガオの発生が少なく、展示ほの除草効果が感じられました。除草に関する意見交換も積極的に行われており、参加者の関心の高さが伺えました。

普及センターでは、今後も登米市内の大豆生産について支援を行ってまいります。

### ○酒米「蔵の華」の稲作指導巡回を行いました 令和7年7月15日 気仙沼農業改良普及センター



気仙沼市廿一地区では、清流「蔵の華」廿一会（会員12名）が、酒米「蔵の華」を約7ha栽培し、気仙沼市内の蔵元2社に全量販売しています。

6月25日に同地区において、「蔵の華」の現地巡回支援を行い、全会員に対して、生育状況の確認と今後の栽培管理について助言を行いました。

5月25日に酒米サポーターズクラブの田植え体験を行ったほ場は、適切に肥培管理が行われ、順調に生育が進んでいる様子でした。他の会員のほ場に関しても、一部に主食用米より生育が遅れているところがあるものの、順調に生育が進んでいます。

いずれの水田周辺も綺麗に草刈りが施されており、丁寧な手入れによって美しい田園風景が管理されていました。

普及センターでは今後も酒米「蔵の華」の品質向上に向けて生育状況の調査等、支援を行います。

○石巻地域肉用牛共進会が開催されました！  
令和7年7月17日  
石巻農業改良普及センター



令和7年7月9日(水)に石巻地域畜産振興協議会主催の石巻地域肉用牛共進会が開催され、暑さが厳しい中でしたが、約50名の参加がありました。共進会には、管内の繁殖雌牛13頭が出品され、発育や体のボリューム、骨格の強さ、和牛としての品位等について審査が行われました。

その結果、第1区若雌の1では、河北・北上和牛改良組合の高橋 勝さん出品の「あや号」、第2区若雌の2では、桃生和牛改良組合の千葉 晋作さん出品の「さちふく号」、第3区経産では、東松島市和牛改良組合の高橋 栄さん出品の「みずき号」が最優秀賞として選ばれました。

審査員からは、地元で保留を重ねてきた牛がほとんどであり、宮城県として大切にしてきた優良な点を引き継ぐ牛が多く、地域として良い改良が進んでいると講評がありました。

第1区、2区で入賞した4頭、第3区から選ばれる3頭(1組3頭の群出品)は、9月に開催される県共進会に石巻地域の代表として出品されます。7月末からは巡回指導会、集合指導会が実施され、県共進会に向けた飼養管理の技術向上を図っていきます。

○令和7年産仙南水稲栽培塾を開催しました  
令和7年7月23日  
大河原農業改良普及センター



大河原管内における水稲の収量及び品質の安定向上のため、7月15日に「令和7年産仙南水稲栽培塾」を角田市内の「だて正夢」展示ほ場を会場として開催しました。

栽培塾では、県の主力品種である「ひとめぼれ」や「つや姫」、ブランド品種「だて正夢」の生育調査結果に基づいた生育状況について説明したほか、展示ほ場の生育ステージを確認し、追肥時期の判断や出穂期の予測を行いました。今年は6月の気温が過去最高となった影響で水稲の生育がかなり早くなっており、出穂期が平年よりも早くなると予想されます。特に、今後予想される登熟期間中の高温への備えとして、下記の①～④のポイントに十分注意するよう説明しました。

- ①減数分裂期の追肥
- ②出穂後の飽水管理
- ③適期の斑点米カメムシ防除
- ④適期刈取

秋には、おいしい仙南のお米を消費者の皆様へ届けられるよう、今後も生産者とともに生育状況を確認しながら、栽培技術のサポートを図って参ります。

○第27回仙南地域和牛共進会が開催されました  
令和7年7月23日  
大河原農業改良普及センター





令和7年7月11日に、仙南地域畜産振興協議会主催の仙南地域和牛共進会が開催されました。4つの出品区に対し、管内から黒毛和種雌牛22頭が出品され、最優秀賞獲得を目指し競い合いました。

体尺測定による発育を調査し、月齢に応じた発育をしているかを評価するとともに、触診による栄養度判定を行い、太り過ぎていないかを確認しました。その後、全国農業協同組合連合会宮城県本部の審査委員3名が黒毛和種牛審査標準に基づき、体の幅や張り、体躯の移行やバランス、体と骨の緊り及び雌牛らしさ等について審査を行いました。

審査序列の結果により、第1区（若雌の1）及び第2区（若雌の2）から2頭、第3区（経産）から3頭、第4区（高等登録群）から2頭が9月に開催される県の総合畜産共進会（以下、県共）への出品が決定しました。

今後、集合指導会を行い、栄養度の管理、体躯の鮮明さや均称を注視し、県共での上位入賞を目指します。また、暑熱の厳しい時期ですので、出品牛も人も体調を壊さないことを意識しながら、県共で仙南和牛を披露できるよう関係者が連携し出品対策に取り組みます。

## ⑥地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

### ○なとり・ぐるっと親子講座 夏野菜もぎとり体験が開催されました

令和7年7月18日

巨理農業改良普及センター



令和7年7月12日に名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「なとり・ぐるっと親子講座夏野菜もぎとり体験」が開催されました。

参加した18家族50人の親子は、名取市内のほ場で旬を迎えた「オクラ」「とうもろこし」、「ミニトマト」の夏野菜の収穫を楽しみ、講師を務めた生産者から栽培の苦労や野菜の美味しい食べ方などを学びました。

当日は、曇り空で気温も低く過ごし易い日で、熱中症の心配はありませんでした。

ミニトマトの収穫では、生産者の御厚意でその場で食べることができ「とっても甘くてジューシー。美味しくて何個でも食べられる」と子供達は口いっぱいに頬張りながら、旬の味を満喫していました。また、袋の端からこぼれるくらい摘み取り、収穫の喜びを体験しました。

名取市内の新鮮な野菜は、毎月第3水曜日に名取市役所内で開かれる「いろいろなとり産直マーケット」等で購入できます。

普及センターでは、引き続き、名取市地域農産物等消費拡大推進協議会の活動と管内農産物の魅力発信を支援してまいります。

## 2. 持続可能な農業・農村の構築

### ① 環境に配慮した持続可能な農業生産

#### ○JA新みやぎ「みどり認定」交付式

令和7年7月2日

仙台農業改良普及センター



仙台農業改良普及センター管内の6法人（農事組合法人アグリ今泉（富谷市）、株式会社大輪（大和町）、株式会社高橋グリーン（大和町）、農事組合法人若木の里（大和町）、みどりあーと山崎株式会社（大郷町）、有限会社ITO（大衡村））が、米などで環境負荷低減事業活動を実施する計画、いわゆる「みどり認定」を、JA新みやぎあさひな営農センターの指導、協力のもと、令和7年5月に認定されました。

令和7年6月25日に、JA新みやぎの佐藤専務や関係者などが集まり、認定証の交付式が行われました。

当普及センターでは、これまで6法人に対して、環境負荷低減事業活動の支援や水稻乾田直播栽培技術の指導を実施しています。

今後も、環境に配慮した農業生産活動を支援していきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>  
〒989-1243  
大河原町字南 129-1  
TEL:0224-53-3519

<亘理>  
〒989-2301  
亘理町逢隈中泉字本木9  
TEL:0223-34-1141

<仙台>  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8320

<大崎>  
〒989-6117  
大崎市古川旭四丁目1-1  
TEL:0229-91-0727

<美里>  
〒987-0005  
美里町北浦字笹館5  
TEL:0229-32-3115

<栗原>  
〒987-2251  
栗原市築館藤木5-1  
TEL:0228-22-9404

<登米>  
〒987-0511  
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5  
TEL:0220-22-8603

<石巻>  
〒986-0850  
石巻市あゆみ野5-7  
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>  
〒988-0181  
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6  
TEL:0226-25-8068



**\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.222

発行日:2025年8月7日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp